

エクソン モービル(XOM)

【セクター】 エネルギー

【市場】 NYSE

【企業概要】

世界最大級、米国最大の総合石油企業です。原油・天然ガスの探鉱と生産のほか、各種石油製品の製造・販売、オレフィン、芳香族化合物、ポリエチレン、ポリプロピレンプラスチックなどの石油化学品の製造を手掛けます。部門別の純利益は、原油生産部門が57%、石油精製部門が24%、化学部門が19%です（17年12月期）。確認埋蔵量は212億石油換算バレル、1日当たりの石油精製能力は4.9百万バレルです（17年12月末）。

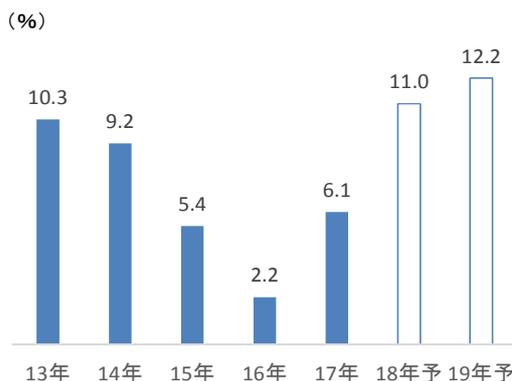
【業績】（単位：売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%）

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
16年12月期	200,628	10,066	2.41	2.98	40.3	4.6	52.6
17年12月期	237,162	15,289	3.59	3.06	44.3	11.1	55.8
18年12月期予想	311,161	19,705	4.62	3.23	45.5	10.1	-

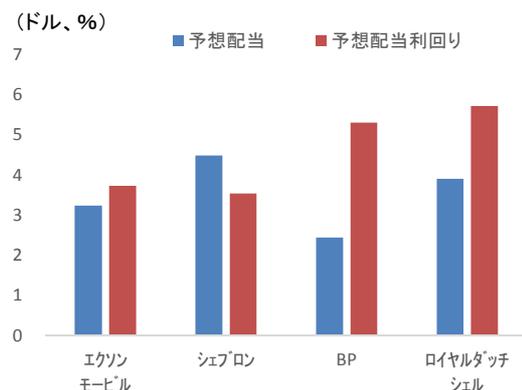
※EPS：1株当たり利益、DPS：1株当たり配当、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

【主要指標】

図表1 営業利益率

注：予想はBloombergのコンセンサス予想（10/9時点）です。
（出所）会社資料よりSBI証券が作成

図表2 エネルギー大手の配当と配当利回り（18年12月期予想）

注：10/9（木）の予想配当と株価によります。
（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

【会社の見方】

会社の信用格付けが「AA+」と財務体質が強く、2014年からの原油価格の下落によって利益が落ち込んでも、株価は配当利回りによって支えられ、原油価格の反発局面でも株価の連動性が低い状態が続いていると見られます。ただ、ここ数年のコスト削減によって原油価格が70ドル台でも営業利益率は2013年のレベルに到達する見込みです（図表1）。予想EPSで5ドル台が見えてくると株価も原油価格の動向に反応する可能性が高そうです。

【見通し・注目点】

原油の生産量が17年は前年比3.5%減、18年4-6月期は前年同期比7.0%減と低調なことが株式市場で嫌気されています。生産減は海上油田などコスト高の油田を売却していることが影響していますが、今後減少幅を縮小させ、増加に転じられるか注目されます。4-6月期決算は、原油価格の上昇を受けた原油生産部門が牽引して増収増益となりましたが、精製部門の利益減により利益は市場予想を下回りました。パーミアン、バッケンなどシェールオイルは前年同期比30%増と増産ピッチがあがっています。

(SBI証券 投資情報部 榮 聡)

(更新日 18/10/10)

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。